

平成 28 年度後期学校生活アンケート

考察

○全体的な傾向

- ・児童の評価は全体的には増加ですが、保護者の評価は項目によってばらつきがあります。
- ・保護者のD評価は昨年度後期にあった児童の「読書」「運動」以外にはなくなりました。これは、前期にあったご意見に対しての対応を一定程度認めていただいたものと考えます。
- ・「一人一人のニーズにあった教育活動」について評価が低下しています。これまで小規模校のよさを生かしていると考えていただいている方が多かったと思われませんが、後期は児童の困り感に対する配慮が十分ではなかった面があったと考えます。
- ・前期に児童・保護者ともに読書についての評価が上昇しましたが、後期は保護者の評価でばらつきが大きくなっています。特にCの評価が増加しています。家庭で読書をする姿があまり見られなくなったと考えます。学習習慣についても同様の傾向が見られます。

○成果と課題

- ・「読書貯金」の活動を今年度より取り入れたことにより、児童・保護者ともに評価が上昇したものの、後期になって動機付けが弱まったのか、家庭での読書習慣の定着まで至っていない児童も見られるようです。今後も「読書貯金」を継続するとともに読書に対する具体的な興味付けを行っていきます。
- ・児童は意欲を持って学校の活動に積極的に取り組んでいます。大半の児童が学校が楽しいと感じていますが、学習や友達関係で困り感のある児童もいます。個に応じた対応を多くしていきます。
- ・学習指導については、授業改善に継続的に取り組んでいるところですが、児童の「授業がよくわかる」はプラスに転じていますが、保護者の「わかるように指導している」の評価が横ばいです。児童の意欲を高め、自ら進んで学び問題を解決することができるように今後も授業改善に取り組みます。
- ・学習習慣・運動習慣ともに評価のばらつきが大きくなりました。「まったくあてはまらない」という児童がいなくなるように具体的な指示・評価をすることで意欲を高めて底上げを図ります。
- ・「安全対策」「事故対応」については、児童の安全確保を最優先に迅速な対応に心がけましたが、正門扉の破損等あり、万全とは言えない面もありました。
- ・学校行事の持ち方、PTA活動、大桜の管理、課外活動等について前期に個別にご意見をいただいたものについては、順次対応させていただいています。まだ準備段階のものもありますので、引き続き取り組んでいきます。

○今後の取り組み

- ・わかりやすい授業、ユニバーサルデザインの授業を目指しながら、個々の困り感を取り除くために個別の対応を強化して学力向上に努めます。
- ・学習ハンドブックを引き続き活用することで、授業と家庭学習をつなぎ、学習に対する意識を高めて学習習慣を身につけさせるよう継続的に指導していきます。
- ・希望者による漢字検定等を実施し、客観性のある確かな学力を身につけさせます。
 - ・ご意見のあったことについて適宜各種会議で検討していきます。